

2019/03/20

TOP コレクション イメージを読む 場所をめぐる 4つの物語

TOP Collection: Reading Images; The Stories of Four Places

2019年5月14日(火) — 8月4日(日)



W.ユージン・スミス

《夜通しで手術を行った後、台所で休むセリアーニ医師、コロラド州クレムリング 1948年》〈カントリー・ドクター〉より 1948年
©2019 The Heirs of W.Eugene Smith/PPS

展覧会概要

TOP コレクションは東京都写真美術館の収蔵作品を紹介する展覧会です。今年のテーマは「イメージを読む」。作品という視覚的なイメージとその読み解き方を考えます。本展は 35,000 点を超える当館コレクションから選び抜かれた個々の作品や、複数点からなるシリーズ作品をとおして、それぞれが語りかけてくる物語に着目します。作品の背後にある意味やお互いを結びつける関連性を浮き上がらせることで、さらに写真というメディアの普遍性にも目を向けることで、イメージを読むという豊かな鑑賞体験へと観客の皆様を誘います。

第1期は「場所をめぐる4つの物語」を取り上げます。それぞれの作家たちは、あるひとつの場所や地域を深く見つめ、その場所に固有の生活や風景、出来事をとらえるだけでなく、現実的な事象からさらにその向こう側にある隠された物事の本質や普遍的な意味をとらえています。本展では写真やテキスト

で展示を構成し、それぞれのイメージを読んでいます。

出品予定作品

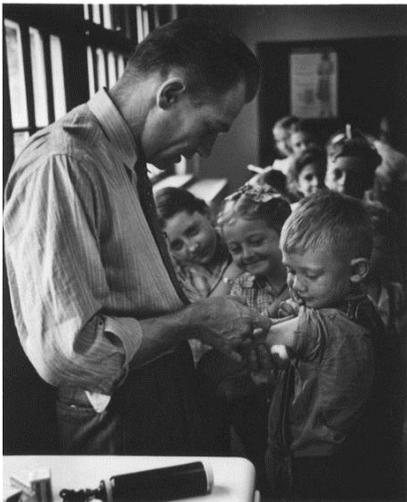
本展では、「場所」と密接にかかわった4つのアプローチを取り上げて、そこから生まれる物語的な世界の広がりを見つめていきます。

コロラド州クレムリング、アメリカ W.ユージン・スミス 〈カントリー・ドクター〉より 約32点

軍艦島、長崎 奈良原一高 〈人間の土地〉より 約44点

出羽三山、山形 内藤正敏 〈出羽三山〉〈出羽三山の宇宙〉より 約34点

調布市周辺、東京 山崎博 〈Ten Points Heliography〉より 20点



W. ユージン・スミス 〈カントリー・ドクター〉

1948年

写真週刊誌『LIFE』1948年9月20日号に初出のこの作品は、ドキュメンタリー写真家の第一人者であるスミスがヒューマンイズムの視点から取材・撮影し、同誌の記者による文章とともに掲載され、社会派フォトエッセイの名作とされる。人口約2000人の田舎町のたった一人の医者アーネスト・セリアーニの多忙な生活と仕事をテーマとした作品。本展では32点の写真作品とともに『LIFE』誌を紹介、約70年前の発表当時のオリジナルストーリーを知ることができる。

W.ユージン・スミス 《Untitled》〈カントリー・ドクター〉より 1948年
©2019 The Heirs of W.Eugene Smith/PPS

奈良原一高 〈人間の土地 緑なき島一軍艦島〉

1954-57年

明治から昭和時代に海底炭鉱で栄えた長崎の島、端島（通称・軍艦島）。最盛期の1960(昭和35)年には約5300人もの人々が暮らし、良質な石炭を産出、日本の近代化を支えたが、主要エネルギーが石炭から石油へ移行したことによって1974(昭和49)年に閉山、無人島となる。2015(平成27)年世界文化遺産に登録され、今日観光地として有名、数多くの映像作品のロケ地としても知られる。『人間の土地 緑なき島一軍艦島』はこの島がまだ稼働し、活気に満ちていた時代の情景を当時気鋭の写真家だった奈良原一高がパーソン



〈人間の土地〉より 1954-57年

ナルな視点からとらえた名作。

内藤正敏 〈出羽三山〉 〈出羽三山の宇宙〉

1980-82 年

修験道の聖地、山形・出羽三山の宗教世界とその祭祀について、作家自らが修行者となってこの地に入り込み、取材した写真シリーズとそこから展開する創造的な世界観を、作家自身による民俗学的な論文や、2018 年の「内藤正敏 異界出現」展の開催時に明らかになったいくつかのエピソードもまじえて紹介する。〈出羽三山〉シリーズは 1983 年土門拳賞受賞作品。



内藤正敏 〈出羽三山〉より 1980 年頃

山崎博 〈Ten Points Heliography〉

1982 年



山崎博 〈Ten Points Heliography〉より 1982 年

作家の代表作である「太陽が描く画」というコンセプトによる長時間露光のシリーズ〈Heliography〉。この作品シリーズ〈Ten Points Heliography〉は、70 年代から 80 年代にかけて作家が手がけた一連の〈Heliography〉の最終形であったが、今日では忘れられてしまった幻の作品である。36 年前、この作品の制作に関わった関係者の証言によって、調布市周辺を中心に都内 10 カ所で同時刻に二日間にわたり撮影された、この作品の壮大なコンセプトと制作過程に迫る。

関連イベント

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

2019 年 6 月 8 日(土) 10:30~13:00

2019 年 6 月 15 日(土) 10:30~13:00

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、展示室で言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。※作品解説ではありません。

対象：どなたでも、定員：各日 7 名、事前申込制(応募多数の場合は抽選)、参加費：500 円(別途本展観覧チケットが必要です)

じっくり見たり、つくったりしよう！

2019年7月27日(土) 10:30~13:00

2019年7月28日(日) 10:30~13:00

暗室での写真制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話し合ったり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。※作品解説ではありません。

対象：小学生とその保護者（2人1組）

定員：各日10組 事前申込制

参加費：800円（別途本展観覧チケットが必要です）

担当学芸員によるギャラリートーク／手話通訳つきギャラリートーク

5月17日、6月7日[★]、6月21日、7月5日[★]、7月19日の各金曜日 16:00、

7月26日[★]の金曜日 18:00より、担当学芸員による展示解説を行います。

[★]印の日程は手話通訳つきギャラリートークを開催いたします。

いずれのギャラリートークも展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

※ 事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

※ 日時・申込み方法等詳細は決定次第お知らせします。

次回予告

「TOP コレクション イメージを読む 第2期」展（仮称）

開催期間 2019年8月10日(金)–11月4日(月・振休)

第2期では、写真が持つイメージや物語性、そして、そこから生じる「時間」に焦点を当ててご紹介します。

展覧会図録

『TOP コレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語』（仮称）

本展より、代表的な出品作品と学芸員のテキストを掲載します。

テキスト 石田哲朗（当館学芸員）

編集・発行 東京都写真美術館

開催概要

展覧会名[和] TOP コレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語

展覧会名[英] TOP Collection: Reading Images; The Stories of Four Places

主催 東京都 東京都写真美術館

協賛 凸版印刷株式会社

会場 東京都写真美術館 3階展示室

東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 URL <http://topmuseum.jp>

開館時間 10:00～18:00（木・金は 20:00 まで）、ただし、7月18日（木）～8月2日（金）の木・金は 21:00 まで開館。入館は閉館 30 分前まで

休館日 毎週月曜日 ただし、7月15日（月・祝）は開館、7月16日（火）は休館

観覧料 一般 500（400）円／学生 400（320）円／中高生・65歳以上 250（200）円

※（ ）は20名以上団体、小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害手帳をお持ちの方とその介護者は無料、第3水曜日は65歳以上無料

※7月18日（木）～8月2日（金）の木・金17:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引（学生・中高生無料、一般・65歳以上は団体料金）※各種割引の併用はできません。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* 図版のトリミング、文字掛け等の加工はできません。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館
1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 www.topmuseum.jp

展覧会担当 石田哲朗 t.ishida@topmuseum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 press-info@topmuseum.jp